

## 令和5年度 まちの保健室委員会 活動報告

|               |  |
|---------------|--|
| <p>■委員名</p>   | <p>委員長：西原勝彦<br/>副委員長：野田保代<br/>委員：皆木かおり・内藤啓子・藤田裕美子・総毛薫・小林さおり・上田由美<br/>武縄幸子・西原沙織・金川昌代・小西みゆき（令和5年10月まで）<br/>大迫しのぶ・永井桂子</p>  |
| <p>■開催回数</p>  | <p>7回</p>  |
| <p>■活動目標</p>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。</li> <li>2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸に貢献する。</li> <li>3. 社会状況に応じた、新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。</li> </ol>   |
| <p>■活動内容</p>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域住民への健康問題について指導内容の統一を図るため、リーフレットの活用を推進し活動時に利用</li> <li>2) 拠点リーダーとボランティアの育成支援を行うため、下記の研修を実施<br/>令和6年1月27日 オーラルフレイル予防 2.5時間</li> <li>3) 拠点活動及び出前隊活動の活性化に向け、まちの保健室の拠点の見直しを行い、拠点活動を継続していくために活動の年間予定を計画し共有<br/>令和5年度まちの保健室拠点活動実績<br/>拠点活動件数54件 活動ボランティア数474名 来所者数3,023名</li> </ol> </li> <li>2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸を図る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な不安や悩みを気軽に相談できるようまちの保健室の開催時にポスター掲示、リーフレットの活用を行い、相談の体制を整備した。</li> <li>2) 住民自ら健康と予防につながる活動が行えるための支援を行っていくため、計測機器のあり方を検討し、相談機能の充実を図るよう取り組んだ。</li> <li>3) 健康長寿の最大の阻害要因となる生活習慣病対策として、成人病予備軍における生活改善指導を活動の中で行った。ピンクリボン推進運動として、乳がん自己検診推進等女性の健康に関することについてリーフレットの活用、受診勧奨を行った。</li> <li>4) 子育て世代の不安に関することや育児について気軽に相談ができる場として拠点の再開や出前隊で母親の健康状態も含め、相談や子育て支援の活動を行った。</li> <li>5) 市町の事業や他団体および多職種等との連携・協働を強化し、「まちの保健室」活動の拡充を図るため地域の出前隊を積極的に取り入れ活動を行った。</li> </ol> </li> <li>3. アフターコロナとなったが、基本的な感染防止対策は行い活動を行っている。</li> </ol> |
| <p>■活動の評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の実績の評価として前年度より、活動数や利用者数の増加は見られており今後も活動の継続と活性化を推進していく。</li> <li>・リーフレットの活用等を行い、相談業務の充実を図る推奨を行い、利用者からも好評であった。</li> <li>・ボランティアの課題である相談対応力向上に対して「フレイル予防」研修会を開催した結果、委員や事務局の広報により、集客が昨年度より51%増（昨年度26名）となり研修会の活性化につながった。</li> </ul>  |

|               |  |
|---------------|--|
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フレイル予防」研修会のアンケート結果より、まちの保健室ボランティアのアセスメントの視点や看護ケアに活かせる学びとなった。グループワークではボランティアがオーラルフレイルの視点から、心身の全体像をとらえ、相談者の状況を問いかけ、潜在的な問題を支援していく事の必要性を学べた。</li> </ul>   |
| <p>■今後の課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の実績の評価として前年度より活動数や利用者数の増加は見られているが、コロナ以前よりは実績数が少ない。拠点の再開についての働きかけや出前隊活動の普及については現在も行っているが、更に実績数を上昇させることは今後の課題である。</li> <li>・相談業務充実に向けて、利用者の相談内容の満足度など評価していく方法を検討し、活動業務の充実につなげていく。</li> </ul> |